

しょうがくせい みな
小学生の皆さんへ

しんがた
新型コロナウイルスのニュースでいっぱいまいにちの毎日です。でも、かんが考えさせられることがたびたびあります。特に私わたしが心こころを痛めていたいる話題わだいについて、今日きょうはお話はなししたいと思おもいます。それは、AFP（フランス通信社）が伝えていた、「アジアの巨大スラムを襲う新型コロナの脅威」という記事です。その中で取り上げられていた、フィリピン人女性アベスさんは、私わたしがかつてフィリピンのスラム（貧しい人々が暮らす町）で出会った人々の姿すがたに重かさなって映り、忘れられなくなりました。

アベスさんは、マニラのトンド地区に住んでいます。トンドとは、マニラ北西部の海沿いにある、世界的に知られたスラムです。トンドではせまいところにたくさんひとの人が住んでいます。その混みぐあいは日本の200倍。どんなきびしい環境で人々がぎゅうぎゅうに暮らしているのか、私たちには想像できないくらいです。感染症予防のため、人との間の距離を取ることや、手を清潔に保つようと、当然、どこの国でも呼びかけられているでしょう。しかし、スラムで暮らす人々にとって、それはもともとできないことなのです。スラムでは料理、洗濯、娯楽等、生活のほとんどが、人の集まる場所で行われます。マスクや消毒液どころか、私たちにとって当然の家族だけが使えるトイレも洗面所もないのです。「スラムは感染症が拡大するのに必要な条件がすべてそろっている。」という言葉が、私の心に重くのしかかりました。

せかいぎんこう ちょうさ ねん ひがし たいへいようち いき おく まんにん ひとびと
世界銀行の調査（2017年）によると、東アジア・太平洋地域では、2億5000万人もの人々がスラムで暮らしているとのことです。この世界的な新型コロナ感染症の拡大で、スラムではいったい何が起きているのでしょうか。フィリピンで感染者数が日に日に増えているというニュースを見ながら、その数にすら数えもらえないかもしれない人々のことを思っています。皆さんも、感染症が終わることを願って祈る時には、スラムで生活せざるを得ない人々のことを、ぜひ、思い出してみてください。

